

2021（令和3）年度 教育行政点検評価シート

《2020（令和2）年度の努力目標（取組事業）》

教育総務課	1ページ
学校教育課（給食センターを含む）	2ページ から 5ページ
生涯学習課	6ページ から10ページ
教育集会所	11ページ から18ページ
公民館	19ページ から22ページ
文化財課	23ページ から24ページ
上野図書館	25ページ から28ページ

それぞれの委員さんが、事業ごとに意見や評価を記入して、ご提出です。

評価欄は、特にその事業に意見や評価が無ければ空欄となります。

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (2020年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見
					2020年度実績値	2020年度目標値				
教育総務課	子どもたちが、安心して学べる	1	校区再編事業の推進	阿山地区小学校再編計画	阿山小学校と玉滝小学校の統合協議を行った。	進捗率100%	進捗率100%	—	完了	令和3年4月1日統合完了
				上野南部地区小学校再編計画	依那古小学校・神戸小学校・比自岐小学校の統合について、神戸小学校PTA、神戸地区、比自岐地区等との協議を行った。	進捗率50%	進捗率50%	—	継続	3小学校の統合に向け協議を継続したい。
		2	学校(園)施設の整備充実	崇広中学校屋内運動場大規模改造事業	屋内運動場の大規模大規模改造工事を行った。	進捗率100%	進捗率100%	126,767	完了	令和2年度に事業を完了した。
				緑ヶ丘中学校校舎大規模改造事業	校舎棟の大規模改造工事を行った。着工は令和3年3月であった。	進捗率30%	進捗率30%	64,250	継続	令和3年度中の事業完了を目指し、工事を継続する。

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (2020年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見
					2020年度実績値	2020年度目標値				
学校教育課	子どもたちが、未来に夢や希望を持てる	1・21 創造的で活力ある学校、地域とともにある学校づくりの推進	地域とともに学校マニフェスト推進事業	<p>○各小中学校(園)に学校評議員・学校評価委員を配置し、家庭や地域と連携し、地域や社会に開かれた学校づくりを推進した。</p> <p>○学校運営協議会の運営により、保護者と地域住民等の学校運営への参画を促し、学校、保護者、地域住民が一体となって心豊かで健やかな子どもたちの育成を図った。</p> <p>○学校支援地域本部事業を推進し、学校と地域が一体となって子どもたちを育て、地域とともにある学校づくりを進めた。</p>	<p>設置者による評価値</p> <p>小中学校 80.0点 幼稚園 87.8点</p> <p>市民の意見を取り入れて学校改善を行っている保護者の割合:88.9%</p>	<p>設置者による評価値</p> <p>小中学校 85.0点 幼稚園 85.0点</p> <p>市民の意見を取り入れて学校改善を行っている保護者の割合:90%</p>	13,801	継続	<p>取組に対する一定の評価は得ているものの、今後さらに各学校(園)から情報を積極的に発信し、保護者や地域の理解と協力を求める必要がある。コロナ禍の中、保護者等が集まる機会をなかなか持てない現状であるが、通信やホームページを積極的に活用し、発信していきたい。</p>	
		2・22 確かな学力の形成 生活体験に即し、興味や欲求を生かした適切な指導	<p>学力向上推進事業</p> <p>教職員研究研修経費</p>	<p>○各小中学校で学力向上アクションプランを作成し、計画・実行・評価・改善のサイクルを定着に努めた。</p> <p>○伊賀市学力向上プロジェクト委員会を実施し、課題の分析、解決に向けた取り組みへの提言等をおこなうとともに、学力向上改善研修会を開催した。</p> <p>○中学校1年生で標準学力検査を実施した。</p> <p>○学力向上アドバイザーを各小中学校に派遣した。</p> <p>○「家庭学習・読書のすすめ」を作成し、小学校1年生、中学校1年生に配付した。</p> <p>○みえスタディ・チェック(県費)を実施した。</p> <p>○郷土教育教材「伊賀のこと」を作成・配付した。</p>	<p>全国学力・学習状況調査</p> <p>市内小中学校の平均点の全国比 小学校:一 中学校:一</p>	<p>全国学力・学習状況調査</p> <p>市内小中学校の平均点の全国比 小学校:105.0 中学校:100.0</p>	7,008	継続	<p>令和2年度は全国学力・学習状況調査が中止となり指標結果が得られなかった。学力の向上は、児童生徒、保護者、地域の願いであり、最重要課題の1つである。今後も課題分析と、その解決に向け、学校、教育委員会が取組を進める。</p>	
				<p>○部会別教育研究活動の充実を図った。</p> <p>○教科書改訂に伴い、指導者用教科書・指導書を配付し、新学習指導要領に対応した指導力向上を図った。</p> <p>○研究指定校研究推進事業の充実を図った。(府小中学校、成和東小学校、成和西小学校、緑ヶ丘中学校)</p>	<p>研修講座への参加人数 参加者数:382人</p>	<p>研修講座への参加人数 参加者数:1,700人</p>	37,553	継続	<p>新型コロナウイルス感染症の影響で、夏季教育講演会が実施できなかった。また、中止を余儀なくされた研修講座もあり、後半は、オンライン研修等で実施した。経験の浅い若手教員の割合が増加していることから、指導力の向上が課題であり、今後も充実を図りたい。</p>	

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (2020年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見
					2020年度実績値	2020年度目標値				
学校教育課	子どもたちが、未来に夢や希望を持てる	3 人権・同和教育の積極的な推進及び差別解消に取り組む実践的な人間の育成	人権同和教育推進事業	○伊賀市人権同和教育基本方針に基づいた研究テーマを設定し、人権・同和教育の研究と実践を行った。 ○幼稚園・小中学校全教職員で学校人権・同和教育部会を組織し、全市的に人権・同和教育の研究と推進を行った。	人権教育カリキュラムの見直しを「十分図れた」「図れた」学校数:30校	人権教育カリキュラムの見直しを「十分図れた」「図れた」学校数:30校	3,300	継続	コロナ禍の中で、中止となる研修会や地区別懇談会があり、参加回数が減少した。 児童生徒が関わる人権侵害(差別事象)の現状は、障がいにかかわる差別発言や外国人、性的マイノリティに対する発言等、減少しているものの、依然として多い。今後も地域や家庭、様々な関係機関と連携しながら、取組を進めていく必要がある。	
		24 人権・同和教育の推進			学校(園)の教職員の人権のつどい・研修会・地区懇談会等参加回数: 1回以上	学校(園)の教職員の人権のつどい・研修会・地区懇談会等参加回数: 5回以上				
		4 キャリア教育の推進	キャリア教育推進事業	○新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、「自分発見!中学生・地域ふれあい事業」による、職場体験活動を中止したが、講師を招いて、進路や生き方について学ぶ学習を実施した。 ○小学校段階からの教育活動全体を通じた組織的・継続的な取組を推進するために、「キャリア・パスポート」の取組を開始した。 ○各学校における発達段階に応じた教育課程のあり方を研究した。 ○「伊賀市キャリア教育研修会」を開催し、専門家からみたキャリア教育のあり方を示してもらい、小中連携の意義を再確認し、今後の方向性を示した。	「自分の生き方や進路を深く見つめることが出来た」と回答した生徒の割合:10%	「自分の生き方や進路を深く見つめることが出来た」と回答した生徒の割合:90%	3,461	継続	職場体験活動を中止せざるを得ず、指標結果得られなかった。コロナ禍の中、各校の工夫によって、生き方学習や進路学習を推進した。今後も、児童生徒が自らがキャリアビジョンを持てるようキャリア教育を充実させていく。	
7 23	生徒指導の充実及び健全な児童生徒の育成 豊かな情操の芽生えと望ましい生活習慣の育成	生徒指導推進事業	○各学校において家庭訪問、巡視・補導、関連機関との連携・対応、捜査活動等の生徒指導活動に取り組むとともに、教育相談体制・生徒指導体制を整備し、教育相談員等と連携しながら問題行動の早期発見・早期の対応や未然防止に取り組んだ。 ○スクール・ソーシャル・ワーカーを2人配置し、学校からの要望に基づいて、家庭支援や制度利用支援を行った。 ○児童生徒一人一人についての理解と対応方法、学級集団の状態と学級経営の方針について把握するため、全小中学校で学級満足度調査(Q-U調査)を2回実施した。 ○全学校にいじめ問題相談員を配置し、地域においてもいじめ問題に相談できる体制づくりに努めた。	小中学校における問題行動発生件数:31件	小中学校における問題行動発生件数:35件	2,773	継続	関係機関との連携を強化しながら、問題行動への対処にとどまらず、未然防止に向けた取組を進める。		

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (2020年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見
					2020年度実績値	2020年度目標値				
学校教育課	子どもたちが、未来に夢や希望を持てる	8 28 29 不登校児童生徒への理解と社会的自立に向けた支援の推進 教育相談の実施 不登校児童生徒の支援	不登校児童生徒支援事業	○伊賀市教育支援センター(ふれあい教室)で、不登校児童生徒に対する適応指導活動、児童・生徒及び保護者との教育相談活動を実施した。 ○不登校の実態把握に努めるとともに、教育相談に関わる教職員研修を実施した。	不登校児童生徒の好ましい状況変化の割合:84.1%	不登校児童生徒の好ましい状況変化の割合:90%	3,618	継続	関係機関と連携しながら、きめ細かい取組を進めるとともに、教育相談の充実を図る。	
		10 子どもたちの安全・安心の確保	教育振興一般経費	○教育活動サポーターの配置、自転車ヘルメットの配付・「子どもSOSの家」旗及び注意喚起看板等の購入により、児童生徒の安全を確保した。	登下校中の小中学生の交通事故発生件数:11件 (前年度差-3件)	伊賀市内の小中学生の交通事故発生件数:0件	1,960	継続	児童生徒の安全の確保に向け、今後も関係機関及び地域の協力を得ながら取組を進めていく。	
		11 26 特別支援教育の充実 個別の支援を要する幼児についての深い理解と実態に即した適切な指導	特別支援教育充実事業	○教育支援員、特別支援教育支援員を配置し、児童生徒のニーズにあった支援を行う体制をつくった。 ○児童生徒の正しい理解のために専門機関による巡回相談を実施し、適切な支援につなげた。	教育支援員・特別支援教育支援員配置:48人	教育支援員・特別支援教育支援員配置:49人	2,423	継続	特別な支援を必要とする児童生徒の教育的ニーズは、年々多様化している。一人ひとりの多様な課題に応えられるよう、より適切な支援を行うことが今後増々必要である。	
		13 外国人児童生徒に対する教育の充実と多文化共生教育の推進	外国人児童生徒支援事業	○初期適応指導教室(チャレンジ教室)を運営した。 ○「外国人児童生徒と保護者のための進路ガイダンス」を実施した。 ○外国人児童生徒のための漢字検定を実施した。 ○日本語指導者研修会を開催した。 ○外国人児童生徒日本語指導補助員を配置した。 ○日本語指導コーディネーターを派遣した。 ○教育相談、保護者への説明の際の通訳派遣、翻訳支援を実施した。	・日本語指導が必要な外国人生徒の高校進学率:100% ・漢字検定 外国人生徒の合格率72.6%	・日本語指導が必要な外国人生徒の高校進学率:95% ・漢字検定 外国人生徒の合格率60%	3,807	継続	2020年度はコロナ禍ということで、進路ガイダンスは規模を縮小しての実施であったため参加者数は減少した。しかし、外国にルーツを持つ児童生徒の割合は増加しているため、今後も進路保障を見据えた様々な取組が重要だと考えている。	

学校教育課・給食センター

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (2020年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見
					2020年度実績値	2020年度目標値				
学校教育課	未来に子どもたちが、夢や希望を持てる	14 外国語教育の推進	英語指導助手招へい経費	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語活動指導助手(JETプログラム事業)を各中学校へ派遣した。 ○外国語活動指導助手(直接任用)を各小学校へ派遣した。 ○小学校外国語指導者研修会を実施した。 	・中学校1クラスあたりのALT派遣日数:約8.7日	・中学校1クラスあたりのALT派遣日数:約8.2日	2,652	継続	小学校5・6年生の外国語科の実施、中学校の英語教育の充実に向けた課題など、事業のニーズはさらに高まっていると考えている。	
		27 教育研究の推進充実	教育研究センター管理運営費	<ul style="list-style-type: none"> ○教育研究センターの管理運営を行った。 ・学校教育及び社会教育関係者の研修会等を開催した。 ・教職員、学校、地域の連携を支援に努めた。 	会議室使用延べ人数:8,286人	会議室使用延べ人数:10,800人	3,884	継続	新型コロナウイルス感染症の影響により、会議室使用人数が減少したが、今後も積極的な運用を促進していきたい。	
給食センター	子どもたちが、安心して学べる	20 学校給食の充実	学校給食管理事業	<ul style="list-style-type: none"> * JAなどの物資納入業者と連携し、食材の確保や価格の調整を図りながら地場産品、特に伊賀産を積極的に使用した。また、いがスマイル給食の取り組みでは、児童・生徒に伊賀市の特産品を知ってもらえるよう献立表等でお知らせをしたり、DVDを活用した。 * 児童の施設見学、学校を訪れ給食センターの業務を紹介しながら、学校給食を通しての食育を実施した。 * 毎月発行する「給食だより」では地元食材を紹介し、伊賀市ホームページには給食の献立盛付表を掲載するなど、家庭に学校給食を知ってもらった。 * 調理場から出るクズ、学校から戻る食べ残しを検量し、児童・生徒が食べ残さない給食を提供できるよう研究した。食育の授業では「食品ロス」について触れた。 * 学校ごとに児童が要望する献立を募り、給食センターで集約した結果を反映させた「リクエストメニュー」を提供した。 	地場産食材(県内産・伊賀産)使用率(年間平均)3センター平均33.0%	地場産食材(県内産・伊賀産)使用率(年間平均)3センター平均30.0%	302,005	継続	地場産食材使用率は、目標を超えている、さらに努力する。「食品ロス」についての教育は学校と連携をとりながら、推進していく。	

所屬	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (2020年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見		
					2020年度実績値	2020年度目標値						
生涯学習課	生涯を通じ、生きがいを持ち活動できる	1	社会教育の推進	成人式開催経費 令和3年1月10日(日)に新成人を祝う式典を中学校区別(9会場)に開催した。広い会場やビデオ放映への変更、様々な禁止や条件を付ける等当日においても十分なコロナ感染対策を取り、実施した。	参加率:71.8%	参加率:76%	1,083	継続	クラスターも発生せず出席者や動員職員に感謝したい。今後暫くは、コロナ感染状況を注視しながら対象者にとって一生に1回の式典を可能な限り開催する。			
		3	地域づくりの支援	生涯学習推進啓発事業 * 上野公民館分館に配置の社会教育推進員を対象に研修等を行った。 * 各住民自治協議会や公民館職員等を対象に人材育成講座を開催した。 * 地域活動の情報共有を図るため、「伊賀市の地域活動-2019年度 基礎データ集録」として更新し、各地区公民館及び分館、地区市民センターや関係各課へ冊子を配布した。	参加者数:227人	参加者数:350名	14	継続	地域活動の充実を図るため、他地域の情報や地域住民が学習する機会を継続して提供する必要がある。			
		4	の培人権 でい、尊 できる主 る主体的 人づくりに づくりに 行行動	教育集会所交流事業 * 伊賀市教育集会所小学生交流会「みんなよっといで!!!」 * 伊賀市教育集会所中学生交流会 * 伊賀市教育集会所高校生・青年生人権学習交流会	参加者アンケートの満足度:100%	参加者アンケートの満足度:95%	415	充実	地域を越えて差別を許さない・差別をなくす仲間の輪を構築するために、差別がある限り継続する必要がある。			
	部落差別をなくす	8	人権問題啓発活動の推進	同和教育研究推進事業 ▼	* 関係機関と連携し人権同和教育研究・推進活動を行いました。 * 地域の実情に応じた人権同和教育講演会・研究大会を実施しました。	参加者数:3,941人	参加者数:8,500人	3,937	継続	部落差別をはじめとする個別の人権課題解決に向けて、地域住民が自ら学ぶ機会として継続して行う必要がある。		
					(いがまち)							
					①学校人権同和教育研究会補助等	①12部会の開催回数:58回	12部会の開催回数:60回	79	継続	* 家庭・地域と連携し、部落差別をはじめとするあらゆる差別の解消を目指す人権・同和教育を推進する。 * お互いの人権感覚を磨き、ともに部落差別をはじめあらゆる差別をなくしていく力を身につける。		
②小中学校交流会補助	②開催回数:小学校4.5.6年中学校1.2.3年各1回 参加者数:476人	開催回数:小学校4.5.6年中学校1.2.3年各1回 参加者数:410人	34									

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (2020年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見	
					2020年度実績値	2020年度目標値					
生涯学習課	部落差別をなくす	8	人権問題啓発活動の推進	▲ 同和教育研究推進事業	(青山)	①開催回数:5回 ②開催回数:中止 ③開催回数:中止 ④開催回数:1回 参加者数:50人	開催回数:15回 開催回数:1回 参加者数:200人 開催回数:1回 参加者数:300人 開催回数:10回 参加者数:250人	-	継続	新型コロナウイルス感染予防のため中止となった事業が多かったが、今後も他課とも連携し、新しい生活様式に対応した内容で実施する。	
					(いがまち)	①開催回数:5回 参加者:1,003人 ②蔵書数:362冊 ③開催回数:1回 参加者数:57人	開催回数:5回 参加者:3,000人 蔵書数:365冊 開催回数:1回 参加者数:70人	17	継続	人権・同和教育や人権啓発を推進する指導者の育成、関係団体等への人権研修の周知や自己学習を進めるための図書コーナーを設置した。	
					(阿山)	①開催回数:1回 来館者数:600人 ②開催回数:12回 来館者数:7,272人 ③開催回数:1回 蔵書数:61冊 ④開催回数:0回 参加者数:0人	開催回数:1回 来館者数:600人 開催回数:12回 来館者数:6,000人 開催回数:1回 蔵書数:210冊 開催回数:4回 参加者数:500人	76	継続	人権同和教育学習講座についてはコロナウイルス感染防止による事業自粛により開催を中止した。人権啓発のため今後も継続実施する。	
					(大山田)	①開催回数:10回 ②蔵書数:269冊 ③開催回数:0回 参加者数:0人 ④参加者数:0人	開催回数:12回 蔵書数:265冊 開催回数:1回 参加者数:50人 参加者数:40人	-	継続	講演会及び研修会については、コロナウイルス感染対策のため中止としたが、人権啓発のため今後も継続実施する。	
					(青山)	①開催回数:8回 参加者数:579人 ②開催回数:0回 ③開催回数:1回 郵送者数:30人	開催回数:8回 参加者数:1,500人 開催回数:5回 開催回数:2回 参加者数:110人	-	継続	新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、多様な人権啓発活動を実施する。	

所屬	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (2020年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見
					2020年度実績値	2020年度目標値				
生涯学習課	子どもや若者が、健やかに成長する	5	青少年の創造的、主体的活動の進展と健全な育成活動の推進	放課後子ども教室推進事業	2つの放課後子ども教室の活動支援を行ったが、(コロナ感染防止の為、1教室は1年間活動休止)市内のコロナ感染状況によっては活動をした。 伊賀市放課後子どもプラン施策検討委員会を8月に書面決議により開催した。	教室1回あたりの平均利用児童数(2教室計): 12人	教室1回あたりの平均利用児童数 (全教室計):25人	1,238	継続	コロナ感染対策を充分取りながら活動して頂いた。 放課後子どもプラン施策検討委員会においては、令和4年度から活動予定の放課後子ども教室の開設について承認を頂いた。今後、地域において教室の開設希望がある場合、引き続き支援を行う。
				青少年センター運営経費	○街頭補導活動:毎月4回の定時補導等を実施した。 ○青少年相談活動:市広報などを通して、青少年相談窓口の周知を行った。 ○環境浄化活動:補導員や補導活動協力者、各関係機関の協力を得て、街頭補導時に市内の書店・カラオケボックス・ゲームセンターなどを巡回し、青少年に有害な環境点検を行うとともに、環境改善への協力を求めた。	被補導少年数:8人	被補導少年数:20人	669	改善	関係機関、関係団体と連携し、計画的な街頭補導活動と環境浄化活動を実施し、状況に合わせて補導内容の検討・改善を行った。 今後も活動の充実を図るとともに、青少年相談窓口の周知に努める。
				青少年健全育成事業	○第13回「輝け! いがっ子フォトコンテスト」を実施し、輝け! いがっ子憲章の周知・啓発を行った。 ○青少年健全育成推進大会として、大人を対象とした講演会(2/6)と、親子を対象とした人形劇の公演(3/6)を計画した。(新型コロナウイルスの感染拡大により中止) ○伊賀市青少年育成市民連絡会議に対して青少年育成活動事業の補助をし、助成団体の特色を生かした事業(地域住民との交流・世代間交流・自然体験など)を支援した。 ○青少年健全育成市内一斉活動を実施した。 青少年非行防止活動強化月間(7月) (※子ども・若者育成支援強調月間および未成年者喫煙防止キャンペーン(11月)は新型コロナウイルス感染防止のため中止) ○伊賀地区こどもわかもの育成支援のための支部研修会を開催した。(※伊賀市青少年育成ネットワークづくり研修会(8月)は新型コロナウイルス感染防止のため中止)	青少年健全育成推進大会参加者数:0人 ※新型コロナウイルス感染拡大により中止となったため。	青少年健全育成推進大会(人形劇・講演会)参加者数:200人	2,346	改善	青少年を取り巻く状況を把握し健全育成活動に取り組む体制が各地区育成団体において形成されており、地域ごとに特色ある事業の実施ができています。 今後も、市民に対する青少年健全育成の活動や団体の周知・啓発に努め、各地域での取り組みを尊重するとともに、伊賀市全体としての取り組みを充実させる。

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (2020年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見
					2020年度実績値	2020年度目標値				
生涯学習課	子どもや若者が、健やかに成長する	5	青少年の創造的、主体的活動の進展と健全な育成活動の推進	▲ 青少年健全育成事業 ▼	ふるさと学習事業	開催回数:3回 参加者数:49人	開催回数:7回 参加者数:140人	100	改善	コロナウイルス感染症拡大防止のため6回のうち3回を中止としたが、青少年健全育成の観点から継続実施が必要であり、今後も子どもたちへの交流・学びの提供に努める。
				青少年健全育成事業	開催回数:0回 参加者数:0人	開催回数:7回 参加者数:1,500人	432	改善	コロナウイルス感染症拡大防止のため全7回を中止したが、市内全域を対象とした青少年健全育成事業として継続実施が必要である。	
				(いがまち)	①夏、冬の体験教室	①開催回数:1回 参加者数:0人(夏季中止) 参加者数:78人(冬季)	開催回数:2回 参加者数:40人(夏季) 参加者数:80人(冬季)	-	改善	・青少年の自主・自立活動並びに社会体験活動を通して、社会参加の推進及び自立に向けた支援に努めます。 ・コロナ禍での事業の中止等が多かったが、感染防止対策を行いながら事業の推進を図った。
(島ヶ原)	①青少年非行防止パトロール ②非行防止事業 ③体験型学習	①開催回数:17回 参加者数:51人 ②開催回数:2回 参加者数:61人 ③開催回数:1回 参加者数:17人	開催回数:25回 参加者数:80人 開催回数:1回 参加者数:20人 開催回数:20回 参加者数:500人	-	改善	青少年の健全育成について地域の方々の関心も高く、協力していただき年々充実してきている。ただ、今年は、新型コロナ等の影響により中止したものが多くあり残念だった。今後とも、地域社会との関わりを深め、豊かな心を育めるように努力していきたいと考えている。				

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (2020年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見
					2020年度実績値	2020年度目標値				
生涯学習課	子どもや若者が、健やかに成長する	5	▲ 青少年健全育成事業	(阿山) ①青少年非行防止パトロール ②人づくり市民会議事業連携	①開催回数:1回 参加者数:6人 ②開催回数:19回 参加者数:192人	開催回数:4回 参加者数:70人 開催回数:18回 参加者数:700人	-	改善	あやま人づくり市民会議と連携し、地域ぐるみで青少年健全育成事業が実施できた。	
				(大山田) *むらびとづくり推進会議事業連携	開催回数:0回	開催回数:8回	0	改善	コロナウイルス感染症対策のため開催できなかった。	
				(青山) ①防犯ネットワーク会議 ②小中学校下校時パトロール ③青山青少年育成会議事業連携	①開催回数:2回 ②開催回数:49回 ③開催回数:5回	開催回数:2回 開催回数:85回 開催回数:11回	-	改善	地域の青少年育成のため、今後も引き続き各種団体と連携し実施する。	

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (2020年度の取組内容)		指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見
				2020年度実績値	2020年度目標値						
教育集会所	部落差別をなくす	9	人権同和教育の推進 教育集会所事業経費 ▼	* 地域ぐるみの同和教育総合実践活動事業 (崇広中学校校区ヒューマンフェスタ) 崇広中学校を中心に校区内小学校の教師、保護者を対象に研修会等を開催し、校区内の一体となった人権同和教育を推進した。崇広中学校区地域ぐるみヒューマンフェスタはコロナ禍で中止になりました。(崇広中学校区地域ぐるみの人権・同和教育推進委員会に委託)	(八幡) 開催中止	(八幡) 開催回数: 1回 参加者数: 2,000人	10	統合	崇広中学校校区内小学校の教師、保護者を対象に研修会等を開催し、校区内の一体となった人権同和教育を推進した。校区において人権意識を高めることが出来て非常に意義のあるイベントであると考えている。		
				* 人権同和教育相談事業 人権同和教育の推進と併せて、保護者からの相談の機会として開設し、対応した。(各集会所では随時対応)	(寺田) 開催回数: 14回 参加者数: 14人	(寺田) 開催回数: 10回 参加者数: 10人	-	統合	今後も保護者とのつながり・関係を深め、相談しやすい雰囲気・環境づくりを進めていく。		
				* 中瀬ふれあい夏祭り人権トーク&コンサート 幅広い市民への人権同和教育並びに人権啓発の推進として、中瀬ふれあい夏祭りにおいて、人権トーク&コンサートを開催した。 * 寺田フィールドワーク 地域や保育士・教職員などの要望に応じて、地区内のフィールドワークを実施することにより、差別の不合理さや差別をなくすために行動する人たちの思いに触れる中で、人権意識の向上をめざした。 * 小中人権同和教育講演会 中瀬小学校・城東中学校のPTAと共催し、児童・生徒・保護者・地域住民などを対象とした、観劇会・講演会を開催した。	(寺田) 開催回数: 3回 参加者数: 451人	(寺田) 開催回数: 6回 参加者数: 1,200人	30	統合	地域住民の交流を図りながら、人権同和教育並びに人権啓発を推進することができたと考える。今後も、継続して実施していく。		
				* 城東中学校区小学校3・6年生人権学習会 * 城東中学校1年生人権学習会 城東中学校区小学校3・6年生、城東中学校1年生の人権・部落問題学習の中での教育集会所・市民館訪問に対応した。	(寺田) 開催回数: 8回 参加者数: 437人	(寺田) 開催回数: 9回 参加者数: 500人	-	統合	担当教職員との事前の打ち合わせにより、対象児童・生徒の現状等を的確に把握し、より効果的なものになるよう、内容等も工夫しながら、実施していく。		

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (2020年度の取組内容)		指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見
				2020年度実績値	2020年度目標値						
教育集会所	部落差別をなくす	9	人権同和教育の推進	▲ 教育集会所事業経費	<p>* 寺田教育を考える母(保護者)の会 部落差別に負けない、許さない子どもの育成と学力保障を実現するため、課題解決に向けた部落問題学習や懇談会を実施し、保護者同士、また、保護者と保育士・教職員とのつながりを深めた。</p> <p>* 保小中高連絡会 保・小・中・高の保育士・教職員と寺田教育集会所が、地区児童・生徒の現状や課題、部落問題について、共通認識を持ち、連携をとりながら課題解決を図ることができるよう、月1回のペースで、連絡会を開催した。</p> <p>* 中瀬城東保育園・支部・教集三者懇談会 * 中瀬小学校・支部・教集三者懇談会 * 城東中学校・支部・教集三者懇談会 地域内の保育園・小学校・中学校と部落解放同盟寺田支部、寺田教育集会所が、地区児童・生徒の現状や課題、人権同和教育の推進について、共通認識を持つため、懇談会を開催した。</p>	(寺田) 開催回数: 26回 参加者数: 312人	(寺田) 開催回数: 30回 参加者数: 400人	-	統合	積極的に、地域内の保護者や保育園、小・中学校、高校と連携し、人権同和教育を推進することができたと考える。今後も、継続して実施していく。	
					<p>* 柘植中学校校区連絡会議</p>	(前川) 開催回数: 9回 参加者数: 117人	(前川) 開催回数: 10回 参加者数: 130人	0	統合	児童・生徒の生活や学習に関わる情報を保小中高で共有し、同和教育の充実を図るために継続して実施する。	
					<p>* 大山田保育園解放保育懇談会 * 大山田小学校教育懇談会 * 大山田中学校教育懇談会</p>	(奥馬野) 開催回数: 3回 参加者数: 86人	(奥馬野) 開催回数: 3回 参加者数: 95人	0	統合	子どもたちの実態をふまえ、保育園、小中学校で懇談会を実施し、解放保育・人権教育を充実させた。	
					<p>* 青山学校同和教育推進委員会</p>	(老川) 開催数: 年9回 延べ参加者数: 99人	(老川) 開催数: 年11回 延べ参加者数: 110人	5	統合	管内の保小中の児童生徒の状況把握、校種間・関係機関との連携ができており、今後も必要な取り組みである。	
					<p>* 保小中同和教育実践交流会</p>	(老川) 開催数: 年6回 延べ参加者数: 72人	(老川) 開催数: 年5回 延べ参加者数: 100人	8	統合	管内の保小中の教職員の人権意識の向上の一助となり、人権教育の周知につなげることができた。	
					<p>① 推進委員会 ② 実践報告書作成 ③ 推進委員会だより発行</p>	(老川) ① 開催数: 年1回 参加者数: 7人 ② 発行: 年1回 ③ 発行: 年2回	(老川) 開催数: 年1回 参加者数: 7人 発行: 年1回 発行: 年3回	172	統合	管内地域住民に学校人権同和教育の周知の一助となっており、継続する必要がある。	

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (2020年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見
					2020年度実績値	2020年度目標値				
教育集会所	部落差別をなくす	9	人権 同和教育の推進	人権教育推進事業 ▼ *生活講座、識字教室 部落差別によって奪われた文字や文化・生活を取り戻すため、文字を中心とした学習活動や差別の不合理さを伝え差別をなくすための啓発活動を共同作品製作を通じて行った。	(八幡) 識字教室 開催回数:38回 参加者数:161人	(八幡) 識字教室 開催回数:48回 参加者数:340人	111	継続	部落差別によって奪われた文字や文化・生活を取り戻すため、学習活動や差別の不合理さを伝え差別をなくす啓発活動を共同作品製作を通じて行った。参加者同士が共同作品を製作することでより繋がりのある活動になっている。	
					(前川) 開催回数:68回 参加者数:648人	(前川) 開催回数:95回 参加者数:1,000人	598	継続	差別の結果による非識字を解消するために識字活動を継続して実施する。	
					(奥馬野) 開催回数:17回 参加者数:101人	(奥馬野) 開催回数:37回 参加者数:270人	172	継続	*部落差別によって奪われた文字や文化・生活を取り戻すため、文字を中心とした学習活動や、差別の不合理さを伝え差別をなくすための啓発活動を共同作品を通じて行った。	
					(老川) ・生活講座 開催数:年24回 延べ参加者数 124人 ・識字教室 開催数:年16回 延べ参加者数 78人 ・パソコン教室 開催数:年16回 延べ参加者数 77人	(老川) ・生活講座 開催数:年20回 延べ参加者数 110人 ・識字教室 開催数:年20回 延べ参加者数 110人 ・パソコン教室 開催数:年20回 延べ参加者数 110人	32	継続	地区住民の生きがいのある生活につながっている。また、地域の教員の差別の現実と当事者の思いを知る機会となっており、継続する必要がある。	

所 属	施 策	努力目標	取組事業名	事業概要 (2020年度の取組内容)	指 標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見
					2020年度実績値	2020年度目標値				
教育集会所	部落差別をなくす	9	人権 同和 教育の 推進	<p>▲ 人権教育推進事業 ▼</p> <p>* 小学生地区学習会 部落差別をはじめあらゆる差別を許さない仲間づくりを進めるために、地域の歴史や人々の生活を学ぶ事で誇りに思い、差別を見抜き、なくしていくことのできる学習を行った。 * 子ども教室 学力保障と差別をなくす仲間づくりを進めるため、長期休業期間中に、学習会や体験教室などを実施した。</p>	(八幡) 開催回数:30回 参加者数:874人	(八幡) 開催回数:32回 参加者数:1000人	-	継続	差別を許さない仲間づくりを進める中で、人権感覚豊かな子ども達の育成が図れている。	
					(寺田) 開催回数:27回 参加者数:784人 (寺田教科学習会) 開催回数:25回 参加者数:167人 (寺田小学生春・夏・冬休み子ども教室) 開催回数:16回 参加者数:90人	(寺田) 開催回数:31回 参加者数:600人 (寺田教科学習会) 開催回数:30回 参加者数:140人 (寺田小学生春・夏・冬休み子ども教室) 開催回数:65回 参加者数:600人	132	継続	地域探検などのふれあい活動を通して、学力保障とともに、生活体験を増やす活動を実施した。少子化により、地域の児童が減少する中、今後も、差別をなくしていく仲間として団結していくことができるよう、事業を計画、継続して実施していく必要がある。	
					(下郡) 開催回数:46回 参加者数:271人	(下郡) 開催回数:40回 参加者数:450人	-	継続	地区内対象者の減少する中、他地区の児童も含めて実施することとなったが、新たに参加してくれる児童が増加しており、交流と学習の機会が増えてきている。	
					(前川) 開催回数:28回 参加者数:727人	(前川) 開催回数:35回 参加者数:1,100人	168	継続	部落差別を見抜き、差別をなくす仲間づくりを進める学習を実施する。	

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (2020年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見
					2020年度実績値	2020年度目標値				
教育集会所	部落差別をなくす	9	人権 同和教育の推進	<p>▲ 人権教育推進事業 ▼</p> <p>* 小学生地区学習会 部落差別をはじめあらゆる差別を許さない仲間づくりを進めるために、地域の歴史や人々の生活を学ぶ事で誇りに思い、差別を見抜き、なくしていくことのできる学習を行った。 * 子ども教室 学力保障と差別をなくす仲間づくりを進めるため、長期休業期間中に、学習会や体験教室などを実施した。</p>	(奥馬野) 開催回数:18回 参加者数:504人 (ライトピア子ども会) 開催回数:0回 参加者数:0人	(奥馬野) 開催回数:30回 参加者数:800人 (ライトピア子ども会) 開催回数:10回 参加者数:120人	奥馬野 228 子ども会 0	継続	<p>【小学校地区学習会】 * 地域の人々の暮らしや歴史を学び、差別を許さない確かな認識や豊かな人権感覚を持った仲間づくりを進め、基礎学力をつけ未来を切り開く進路保障の取り組みを進めた。 【ライトピア解放学習会】 * 事業は奥馬野・中馬野・坂下地域の小学生およびその保護者が対象である。地域のつながりを深め、夏休み・冬休みには学習会を実施し学力の補充を行い、児童と保護者が参加できる体験活動を通じて仲間づくりや交流を進める予定だったが、新型コロナウイルスのまん延防止対象地域となったため、実施できなかった。</p>	
					(八幡) 中学生地区学習会 開催回数:26回 参加者数:390人 高校生等学習会 開催回数:38回 参加者数:468人	(八幡) 中学生地区学習会 開催回数:36回 参加者数:440人 高校生等学習会 開催回数:50回 参加者数:800人	83	継続	<p>将来の展望を持ち、仲間とともに自己実現を図っていく学習会を開催した。中学生の学力向上と人権意識の向上や高校生等の差別を許さない仲間づくりに寄与している。</p>	
					(下郡) 開催回数:21回 参加者数:117人 (下郡高校生友の会) 開催回数:10回 参加者数:0人	(下郡) 開催回数:30回 参加者数:330人 (下郡高校生友の会) 開催回数:12回 参加者数:36人	-	継続	<p>・地区内対象者の減少中、他地区の生徒も含めて実施することで、新たな交流と学習が備わった。 ・友の会は、高校生・社会人も少なく、募集をしたものの参加の向上に至っていない。窓口として残し、対象者への案内も続けていく。</p>	

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (2020年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見
					2020年度実績値	2020年度目標値				
教育集会所	部落差別をなくす	9	人権 同和教育の推進	<p>▲ 人権教育推進事業 ▼</p> <p>* 中学生地区学習会、高校生・青年友の会 部落差別をはじめあらゆる差別を許さない仲間づくりを進めるために、地域の歴史や人々の生活を学ぶ事で誇りに思い、差別を見抜き、自分達で活動する大切さを学習することができた。</p>	<p>(寺田)</p> <p>開催回数:30回 参加者数:386人 (寺田教科学習会)</p> <p>開催回数:32回 参加者数:276人 (寺田高校生友の会)</p> <p>開催回数:9回 参加者数:38人 (寺田小中高合同地区学習会)</p> <p>開催回数:0回 参加者数:0人</p>	<p>(寺田)</p> <p>開催回数:35回 参加者数:450人 (寺田教科学習会)</p> <p>開催回数:50回 参加者数:310人 (寺田高校生友の会)</p> <p>開催回数:15回 参加者数:70人 (寺田小中高合同地区学習会)</p> <p>開催回数:2回 参加者数:100人</p>	69	継続	児童・生徒・青年の縦のつながりを深めることを意識して、事業を実施した。少子高齢化により、地域の児童・生徒・青年が減少する中、今後も、差別をなくしていく仲間として団結し、活動のリーダーとなっていくことができるよう、事業を計画、継続して実施していく必要がある。	
					<p>(奥馬野)</p> <p>開催回数:25回 参加者数:515人 (奥馬野中高生学習会)</p> <p>開催回数:0回 参加者数:0人</p>	<p>(奥馬野)</p> <p>開催回数:30回 参加者数:600人 (奥馬野中高生学習会)</p> <p>開催回数:8回 参加者数:60人</p>	奥馬野 219 学習会 0	継続	<p>【中学校地区学習会】</p> <p>* 地域の人々の暮らしや歴史を学び、差別を許さない確かな認識や豊かな人権感覚を持った仲間づくりを進め、基礎学力をつけ未来を切り開く進路保障の取り組みを進めた。</p> <p>【中学生高校生学習会】</p> <p>* 夏休み・冬休み・春休みを利用して、確かな学力を身につけ進路を保障していくために、課題や復習問題に取り組む機会を提供しました。地域在住の先輩や大学生等に講師を依頼することで、勉強だけではなく将来のキャリアデザインを描くアドバイスも行う予定でしたが、新型コロナウイルスのまん延防止地域に指定されたため、実施していない。</p>	

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (2020年度の取組内容)		指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見	
				2020年度実績値	2020年度目標値	2020年度実績値	2020年度目標値					
教育集会所	部落差別をなくす	9	人権同和教育の推進	▲ 人権教育推進事業 ▼	▲	* 中学生地区学習会、高校生・青年友の会 部落差別をはじめあらゆる差別を許さない仲間づくりを進めるために、地域の歴史や人々の生活を学ぶ事で誇りに思い、差別を見抜き、自分達で活動する大切さを学習することができた。	(前川) 開催回数: 71回 参加者数: 1,051人 (前川・わかもの & スクラム) 開催回数: 1回 参加者数: 54人	(前川) 開催回数: 90回 参加者数: 1,400人 (前川・わかもの & スクラム) 開催回数: 3回 参加者数: 80人	513	継続	部落差別の解消を目指し、行動に移せる生徒を育てる学習を実施する。 また、差別解消に取り組んでいる青年層と次の世代(中・高)との交流を深める。	
						(八幡 人権講演会) 開催回数: 0回 参加者数: 0人	(八幡 人権講演会) 開催回数: 2回 参加者数: 190人	0	継続	奨学金の意義を奨学生と保護者、学校関係者に対して深く周知することができる。		
						(下郡人権と平和学習会) 開催回数: 1回 参加者数: 71人 展示会10日間 延べ200人の参加 (依那古草の根会議) 開催回数: 0回 参加者数: 0人 (上野南中学校区 推進委員会) 開催回数: 3回 参加者数: 44人 (上野南中学校区 各部交流会) 開催回数: 3回 参加者数: 37人 (高齢者 人権教養講座) 開催回数: 0回 参加者数: 0人	(下郡人権と平和学習会) 開催回数: 2回 参加者数: 130人 (依那古草の根会議) 開催回数: 1回 参加者数: 100人 (上野南中学校区 学習会) 開催回数: 1回 参加者数: 70人 (下郡老人クラブ 学習会) 開催回数: 1回 参加者数: 60人	58	継続	他の団体と連携して実施できたことは、よい啓発に結びついている。今後においても効果的な内容の講演会・学習会を提供し、人権教育推進事業として取り組みを図る。 また、コロナ禍ということもあり、「開催中止」となった事業もあり、次年度は開催できるよう環境を整えたい。		

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (2020年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見
					2020年度実績値	2020年度目標値				
教育集会所	部落差別をなくす	9	▲ 人権 同和 教育 の 推 進	▲ * 人権教育講演会、学習会 部落差別をはじめとするあらゆる差別の撤廃に向けて、地域における人権同和教育をすすめるために、様々な機会をとらえて人権同和问题に対する講演会や学習会はコロナ禍で中止となりました。	〈前川 特別解放講座〉 開催回数:0回 参加者数:0人	〈前川 特別解放講座〉 開催回数:1回 参加者数:100人	0	継続	部落差別をなくす活動を広く伝える場として継続して実施する。	
					(老川) 開催数:年1回 延べ参加者数 :19人	(老川) 開催数:年3回 延べ参加者数 :200人	10	継続	人権同和教育の推進の一助となっており、継続の必要がある。	

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (2020年度の取組内容)		指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見	
				2020年度実績値	2020年度目標値	2020年度実績値	2020年度目標値					
公民館	生涯を通じ、生きがいを持ち活躍できる	7	生涯学習の機会や場の提供を図り、活動内容の充実	公民館事業経費	上野公民館	通年講座(悠々・ダンスフィットネス・免疫力UPヨガ)	開催回数:14回 参加者数:286人	開催回数:17回 参加者数:900人	81	統合	コロナウイルス感染拡大防止対策をとりながら継続して事業を実施する。	
					初めての講師サポート事業を実施し、1事業を採択した。	開催中止	開催回数:10回 参加者数:150人	0	統合	コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。		
					天神祭におけるだんじり見学、組紐づくり体験を開催した。	開催回数:2回 参加者数:39人	開催回数:3回 参加者数:60人	15	統合	小学生と保護者を対象に体験学習に取り組めた。		
					丑の春展として、子どもを対象とした絵画と一般対象の絵馬の作品を募集し、期間中の掲載に努めた。	参加者数:112人	参加者数:250人	24	統合	歴史のある取り組みであるため、継続して実施する。		
					サークルまつり	サークル数:21 (中止)	サークル数:21	24	統合	コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。		
					公民館サークルの育成を行った。	回数:2回	回数:2回	0	統合	サークル活動の場として継続した支援が必要。		
					上野公民館分館活動事業を21分館へ委託した。	分館数:22 事業数:159	分館数:22 事業数:200	5,916	統合	分館廃止後も生涯学習活動の推進が必要であり、継続して支援する。		
					参加型絵画教室めぐりでゴッホ展を開催した。	参加者数:1,350人	—	0	統合	コロナウイルス感染拡大防止対策をとりながら継続して事業を実施する。		
					いがまち公民館	公民館一般講座	開催回数:18回 参加者数:322人	開催回数:36回 参加者数:700人	108	統合	・コロナ禍での教室中止等で教室や参加者が減少した。 ・住民のニーズや講座内容の充実を図るとともに世代間の交流にも努める。	
					公民館こども講座	開催回数:5回 参加者数:64人	開催回数:12回 参加者数:250人	30	統合	・コロナ禍での教室中止等で教室や参加者が減少した。 ・子どもの健やかな成長といろんなことに挑戦する好奇心を育てる教室を実施する。		
読み聞かせ会	開催回数:2回 参加者数:54人	開催回数:30回 参加者数:500人	2	統合	・コロナ禍で読み聞かせの大半が中止となった。 ・読み聞かせを通して読書習慣をもってもらい、想像力豊かな子どもの育成に努める。							

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (2020年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見		
					2020年度実績値	2020年度目標値						
公民館	生涯を通じ、生きがいを持ち活躍できる	7	生涯学習の機会や場の提供を図り、活動内容の充実	公民館事業経費	やまなみ文化協会育成	回数:2回	回数:2回	180	統合	サークル団体への支援を通して、次世代につなげるための人材育成を図った。		
					▲ いがまち公民館	やまなみ文化祭(サークル交流会)	開催回数:1回 参加団体:30団体	開催回数:1回 参加団体:13団体	50	統合	・コロナ禍により文化祭を中止しサークル協議会各団体代表者等の交流会を実施した。 ・文化祭を通して、学習成果の発表の場の提供に努める。	
					いがまち展覧会	開催回数:1回 出展者数:575人	開催回数:1回 出展者数:800人	20	統合	・コロナ禍での規模を縮小した展覧会を開催した。 ・生涯教育のための成果の発表の場としての展覧会等が必要である。		
					公民館一般講座	開催回数:12回 参加者数:177人	開催回数:24回 参加者数:350人	208	統合	新型コロナウイルスの感染拡大防止のため開催できないことが多かったが、生涯学習の場を提供することにより、生き生きとした活動や取り組みを目指す。		
					絵本の読み聞かせ教室	開催回数:8回 参加者数:385人	開催回数:20回 参加者数:600人	45	統合	新型コロナウイルスの感染拡大防止のため開催回数は少なくなったが、親と子が心のふれあいを深めたり、読書の楽しさを知る機会となっている。		
					文化サークルまつり演芸会	開催回数:0回 参加者数:0人	開催回数:1回 参加者数:100人	33	統合	新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、中止した。		
					文化作品まつり展覧会	開催回数:1回 参加者数:495人	開催回数:1回 参加者数:600人	56	統合	日頃取り組んでいる作品や成果を展示する事により、創作意欲や生きがいに繋がっている。		
公民館サークルの育成	回数:1回	回数:3回	112	統合	新型コロナウイルスの感染拡大防止のため会議やミーティングの回数は少なくなったが、地域の方やサークル協議会の方のご意見を聞きながら充実した活動ができるようサポートする。							

所屬	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (2020年度の取組内容)	指 標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見	
					2020年度実績値	2020年度目標値					
公民館	7	生涯学習の機会や場の提供を図り、活動内容の充実	公民館事業経費	阿山公民館	公民館一般講座	開催回数:6回 参加者数:103人	開催回数:6回 参加者数:100人	42	統合	講座・教室については概ね住民のニーズのある内容で実施できたが、年度末にコロナウイルス対策のイベント自粛で一部の事業が実施できなかった。展覧会で住民間の文化交流を図ることができた。	
				阿山公民館	子ども対象講座	開催回数:18回 参加者数:137人	開催回数:33回 参加者数:450人	76	統合		
				阿山公民館	あやま芸能まつり	開催回数:0日 参加者数:0人	開催回数:1日 参加者数:450人	-	統合		
				阿山公民館	あやま展覧会	開催回数:3日 参加者数:669人	開催回数:3日 参加者数:1,200人	10	統合		
				阿山公民館	公民館サークルの育成	回数:8回	回数:8回	144	統合		
				阿山公民館	読み聞かせ会	開催回数:7回 参加者数:5人	開催回数:24回 参加者数:110人	15	統合		
			大山田公民館	公民館一般講座	開催回数:11回 参加者数:173人	開催回数:20回 参加者数:300人	50	統合	市民のニーズに応じた教室を継続実施する。		
				子ども対象講座	開催回数:7回 参加者数:131人	開催回数:10回 参加者数:220人	36	統合	市民のニーズに応じた教室を継続実施する。		
				リズム運動教室(園児対象)	開催回数:5回 参加者数:180人	開催回数:6回 参加者数:230人	54	統合	心身の発達のため、大山田保育園年長児を対象に継続実施する。		
				サークルの育成	回数:1回	回数:3回	0	統合	引き続き各サークル活動を活性化できるよう育成指導する。		
				芸術文化祭(芸能大会)	開催回数:0回 参加団体:0団体	参加団体数:7団体	165	統合	コロナウイルス感染対策のため中止した。		
				芸術文化祭(展覧会)	開催回数:0回 出展者数:0人	出展者数:800人	0	統合	コロナウイルス感染対策のため中止した。		
				読み聞かせ会(図書室)	開催回数:11回 参加者数:110人	開催回数:24回 参加者数:240人	30	統合	コロナウイルス感染対策のため開催回数が減少した。		
				読み聞かせ会(大山田小学校)	開催回数:4回 参加者数:404人	開催回数:30回 参加者数:1,100人	20	統合	1,2年生合同で読み聞かせを行なったことや、コロナウイルス感染対策のため開催回数減少した。		
読み聞かせ会(子育て支援センター他)	開催回数:2回 参加者数:38人	開催回数:3回 参加者数:140人	0	統合	コロナウイルス感染対策のため開催回数減少した。						

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (2020年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見	
					2020年度実績値	2020年度目標値					
公民館	生涯を通じ、生きがいを持ち活躍できる	7	生涯学習の機会や場の提供を図り、活動内容の充実	公民館事業経費	まなびあおやま(一般)講座	開催回数:4回 参加者数:28人	開催回数:23回 参加者数:390人	91	統合	地域の人が生き生きと過ごせるよう取り組みを継続することが必要である。	
					まなびあおやま(こども)講座	開催回数:1回 参加者数:11人	開催回数:6回 参加者数:220人	62	統合	子どもたちが日ごろ経験できない様々な体験を提供していくことが大切である。	
					図書室公開講座『おはなし広場』	開催回数:1回 参加者数:67人	開催回数:7回 参加者数:350人	8	統合	図書室での公開講座を通して読書をはじめ学ぶことの楽しさを提供することが大切である。	
					地域学習講座	開催回数:10回 参加者数:264人	開催回数:5回 参加者数:360人	103	統合		
					読み聞かせ会(青山図書室)	開催回数:5回 参加者数:125人	開催回数:15回 参加者数:450人	0	統合		
					文化サークル連協芸能発表会	中止	開催回数:1回 参加者数:400人	0	統合	新型コロナウイルス感染予防のため中止となった事業が多かった。今後は、新生活様式に対応しながら市民のニーズに応えられる内容を検討し実施する。	
					ふるさと美術文化展覧会	中止	開催回数:1回 参加者数:410人	0	統合		
					公民館サークルの育成	回数:4回	回数:18回	0	統合		
					青山分館活動事業	分館数:6 事業数:23	分館数:6 事業数:48	1,219	統合	上野と青山だけにある分館は、市域全体で新しい生涯学習体制を整えるため廃止。	

所屬	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (2020年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見
					2020年度実績値	2020年度目標値				
文化財課	歴史や文化遺産を守り、未来へと引き継ぐ	文化財の調査・指定及び活用の推進	文化財保存経費	*文化財保護審議会(2回)、文化財保護指導委員会(1回)を開催し、1件を新たに市の文化財として指定した。 *指定文化財の調査・管理を実施した。(64件) *指定文化財の説明看板を3カ所設置した。 *文化財年報を発行するとともに、書籍『伊賀市の文化財』を販売し、文化財の啓発に努めた。	文化財調査64件	文化財調査50件	964	継続	県内最多の指定文化財が所在する当市では、各種文化財の適切な保護・保存と、周知に努めている。	
			文化財施設維持管理	*直営1館、指定管理4館の文化財施設を適切に維持管理し、入館者を増やすよう啓発した。	入館者数 8.89人/日	入館者数 12.50人/日	25,788	継続	文化財施設の周知に努めるとともに、コロナ禍の中、指定管理者である伊賀市文化都市協会と連携し、入館者を増やすよう努めた。	
			歴史まちづくり事業	*伊賀市歴史的風致維持向上計画に基づき、2回の法定協議会、1回会議を開き、歴史まちづくりを進めた。 *重点区域内において、歴史的風致維持向上形成建造物の指定を5件指定した。	計画進捗率30%	計画進捗率30%	386	継続	重点区域3カ所のうち、上野城下町区域では事業が進捗しているが、阿保・島ヶ原の事業進捗が課題である。	
	民有形文化財の保護・保存		文化財保存事業	*国重要無形民俗文化財 上野天神祭のダンジリ行事の民俗文化財伝承・活用等事業及び同行事の保存管理事業を指導・助言・監督した。	事業進捗率66%	事業進捗率66%	3,634	継続	事業主体である上野文化美術保存会と連携し、適切に修理事業を進めた。	
				*国重要文化財 猪田神社本殿の防災設備整備事業を指導・助言・監督した。	工事進捗率100%	工事進捗率100%	476	完了	事業主体である猪田神社と連携し、適切に修理事業を行った。	
				*国重要文化財 高倉神社本殿の防災設備整備事業を指導・助言・監督した。	工事進捗率25%	工事進捗率25%	311	継続	事業主体である高倉神社と連携し、適切に修理事業を行った。	
				*県指定有形文化財 春日神社拝殿の解体修理事業を指導・助言・監督した。	工事進捗率71%	工事進捗率71%	8,716	継続	事業主体である春日神社と連携し、適切に修理事業を進めた。	
				*市指定有形文化財 常福寺鳳凰彫刻の保存修理事業を指導・助言・監督した。	事業進捗率100%	事業進捗率100%	981	完了	事業主体である常福寺と連携し、適切に修理事業を行った。	

所屬	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (2020年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見	
					2020年度実績値	2020年度目標値					
文化財課	歴史や文化遺産を守り、未来へと引き継ぐ	記念物（史跡・名勝天然記念物）の保護・保存	国史跡伊賀国庁跡保存整備事業	* 史跡公園としての整備を図るため、史跡伊賀国庁跡保存整備事業指導委員会(1回)を開催し、指導・助言を得ながら保存整備工事に着手するとともに、未取得であった史跡地内の用地を取得した。	進捗率: 43%	進捗率: 43%	16,420	継続	史跡整備の工事に着手し、造成工事を行った。		
			国史跡上野城高石垣計測事業	* 国史跡上野城の高石垣で定点測量を実施し、高さや位置の変化を観察した。	測量実施地点数 10点		443	継続	石垣崩落の危険性を把握できるよう努めた。		
			文化財保存経費	* 国史跡上野城跡、伊賀国分寺跡、御墓山古墳の草刈り及び障害木の伐採を行い環境整備に努めた。 * 県指定天然記念物ノハナショウワ群落管理業務を実施した。 * 国特別天然記念物オオサンショウウオの保護に努めた。	進捗率100%		4,399	継続	国史跡の環境整備に努め、天然記念物の保護活動を適宜行った。		
		5	埋蔵文化財の保護と活用	埋蔵文化財発掘調査経費	* 上野丸之内地内の(仮称)忍者体験施設整備事業に伴い、成瀬平馬家屋敷跡の発掘調査を実施し、その成果を報道発表した。 * 対象となる民間・公共の開発事業に対し協議を進め、適宜試掘調査・立会調査を行った。	発掘調査 1件 試掘調査 4件 立会調査 16件	試掘調査 5件 立会調査 5件	0	継続	開発事業に対し、埋蔵文化財包蔵地の照会を行い、遺跡地に該当する場合は、調査を進め文化財保護に努めた。	
		6	文化財や歴史に関する諸資料の収集・保存及び活用	歴史資料保存管理経費	* 市民からの依頼で歴史資料を5件調査、収集し、目録を10件作成した。 * 『広報いが市』に「伊賀の歴史余話」(6回)を掲載した。 * 上野図書館・文化交流課とともにデジタルミュージアム「秘蔵の国 伊賀」を制作し、公開記念講演会(1回)を開催した。 * 『成瀬平馬家長屋門保存整備工事報告書』(中心市街地推進課担当)の分担執筆した。	目録作成10件	目録作成10件	542	継続	市民から不時依頼のある歴史資料の調査を適宜行った。また、伊賀の歴史的魅力を発信できるよう努めた。	

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (2020年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見	
					2020年度実績値	2020年度目標値					
図書館	生涯を通じ、生きがいを持ち活躍できる	1	市民の学習活動の支援	図書館管理経費 図書室管理運営経費 ・図書館の利用促進	* 市民の生涯学習の場として、蔵書や資料の充実、提供に努めた。 * 夏休みには、小学校4・5・6学年を対象とした「調べ学習」や、未就学児から小学生を対象とした「夜のとしよかん探検」事業を実施し、楽しみながら学ぶ機会を設けた。 * 忍者月間には「忍者図書館」として、忍者特集や装飾を行い利用促進に努めた。 * 伊賀市や関係団体が所蔵する貴重な歴史資料をデジタル化し、インターネット上で公開する「デジタルミュージアム 秘蔵の国 伊賀」を開設し、いつでも、だれでも、どこでも、簡単に見ることができるようにした。	進捗率100%	進捗率100%	101,469			
						上野:59,480人	上野:67,000人	90,012	充実	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、約1ヶ月休館したこともあり、貸出利用者数が減少したが、感染症対策を行いながら、生涯学習の場としての役割を果たしていく必要がある。	
						いがまち:2,898人	いがまち:3,000人	2,903	充実	利用促進を図るとともに、地域住民に親しまれる図書室運営を目指します。	
						島ヶ原:331人	島ヶ原:400人	317	充実	より多くの人に利用周知するよう努力します。	
						阿山:2,059人	阿山:2,500人	2,739	充実	図書室利用者及び貸出数ば、コロナウィルス対策による休館で減少したが、事業については概ね住民ニーズを考慮し実施できた。	
						大山田:2,779人	大山田:3,400人	2,665	充実	コロナウィルス感染対策のため、図書室のイベント等が中止や縮小になったため、貸出利用者数も減った。	
						青山:3,319人	青山:4,000人	2,833	充実	2年後に控えている青山支所周辺施設との複合化に向け調整を行っている。	
		2	利用者サービスの充実	・図書の貸出	* 市広報・図書室だより・分館の図書室広報誌等で、新着図書、おすすめ図書の紹介や催し物等開催について情報発信する中で利用促進に繋げた。 * 図書館情報システム連携により、各図書館間や三重県立図書館等との相互貸借貸出等、利便性の向上を図った。 * 地域の特性を活かした図書室運営を行い、身近な図書室ならではの読書活動推進に取り組んだ。 * 校園長会などを通じて団体貸出のPRを行うとともに、月に2校ずつ市内小中学校へのセット文庫の定期配送サービスを行い、学校図書館支援を行った。 * 上野点字図書館の録音図書の取次貸出サービスや、障がいのある方への郵送貸出サービスを行った。	貸出冊数計 273,435冊 (内児童書 117,521冊)	貸出冊数計 307,000冊 (内児童書 130,100冊)				
						上野:231,965冊 (内児童書 94,624冊)	上野:261,000冊 (内児童書 107,000冊)		充実	新刊図書購入及び学校図書館支援、障がい者サービスの充実を図る必要がある。	
						いがまち:10,829冊 (内児童書 6,534冊)	いがまち:12,000冊 (内児童書 6,000冊)		充実	地域の利用者に向けた情報提供を行い、貸出サービスの推進を図った。	

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (2020年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見	
					2020年度実績値	2020年度目標値					
図書館	生涯を通じ、生きがいを持ち活躍できる	2	▲利用者サービスの充実	▲ ・圖書の貸出	▲	島ヶ原: 756冊 (内児童書298冊)	島ヶ原: 800冊 (内児童書400冊)		充実	インターネット等も活用した予約の利用も周知し、サービスの向上を図ります。	
					* 市広報・図書室だより・分館の図書室広報誌等で、新着図書、おすすめ図書の紹介や催し物等開催について情報発信する中で利用促進に繋げた。	阿山: 8,429冊 (内児童書 4,247冊)	阿山: 10,000冊 (内児童書 5,500冊)		充実	コロナウイルス感染対策で休館したため貸出冊数が減少したが、概ね目標は達成できた。	
					* 図書館情報システム連携により、各図書館間や三重県立図書館等との相互貸借貸出等、利便性の向上を図った。	大山田: 10,699冊 (内児童書 6,748冊)	大山田: 12,000冊 (内児童書 6,200冊)		充実	コロナウイルス感染対策や新書の購入が減ったため、貸出冊数が減少した。	
					* 地域の特性を活かした図書室運営を行い、身近な図書室ならではの読書活動推進に取り組んだ。	青山: 10,757冊 (内児童書 5,070冊)	青山: 11,200冊 (内児童書 5,000冊)		充実	図書室内での講座や関係事業を実施し図書室の存在をPRし読書活動推進に取り組んでいる。	
					* 校長会などを通じて団体貸出のPRを行うとともに、月に2校ずつ市内小中学校へのセット文庫の定期配送サービスを行い、学校図書館支援を行った。	配送書籍数計 19,393冊	配送書籍数計 22,400冊				
				* 上野点字図書館の録音図書の取次貸出サービスや、障がいのある方への郵送貸出サービスを行った。	上野: 7,392冊	上野: 8,000冊		充実	相互貸借の活用及び学校図書館との配送サービスを継続実施する必要がある。		
				・図書配送サービス	いがまち: 3,467冊	いがまち: 4,000冊		充実	他の図書室との連携強化を図りサービス向上に努めます。		
					島ヶ原: 616冊	島ヶ原: 800冊		充実	配送サービスの周知を行い、利便性の向上を図ります。		
					阿山: 2,531冊	阿山: 3,100冊		充実	継続して配送サービスを実施する。		
					大山田: 3,046冊	大山田: 4,000冊		充実	継続して配送サービスを実施する。		
	青山: 2,341冊	青山: 2,500冊		充実	配送サービス活用のPRを継続して行っている。						

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (2020年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見	
					2020年度実績値	2020年度目標値					
図書館	生涯を通じ、生きがいを持ち活躍できる	3	読書活動の支援と充実 ▼	・読み聞かせ会等の実施 * 図書館(図書室)において、市内の各ボランティアグループの協力を得て、子どもが本に親しむ機会をつくるため、絵本や紙芝居の読み聞かせ会を実施した。 * 学校などへ出向きブックトークや読み聞かせ会を実施するほか、児童への図書利用促進を図った。 * 同じ題名の各国の絵本を活用して、多言語での読み聞かせ会を開催し、言語・文化的な多様性に触れる機会をつくった。	開催数計 115回	開催数計 265回					
					上野: 30回	上野: 60回		充実	各ボランティアグループや地域の団体と連携し、継続実施する。		
					いがまち: 27回	いがまち: 30回		充実	読み聞かせ会等を通して読書習慣をもってもらい、想像力豊かな子どもの育成に努めます。		
					島ヶ原: 8回	島ヶ原: 21回		充実	引き続きボランティアグループの協力を得て、子どもや高齢者への読み聞かせ会を開催していきます。		
					阿山: 9回	阿山: 24回		充実	継続して実施するが、コロナウイルス感染対策の休館日等で開催回数、参加者も大幅に減少した。		
					大山田: 26回	大山田: 60回		充実	コロナウイルス感染対策のため、読み聞かせ会等が減った。		
					青山: 15回	青山: 70回		充実	コロナウイルス感染対策のため、読み聞かせ会等が減った。		
			・特集コーナーの設置 ▼	* 「郷土の歴史夜咄会」を開催し、伊賀の歴史を学ぶ機会を提供するとともに、関連資料の歴史企画展示を行うことにより、伊賀の歴史への関心を高めた。 * 市民ニーズや時事情報を参考にテーマを決め、関連資料特集コーナーを設け利用促進に努めた。	特集実施計 136回	特集実施数計 140回					
					上野: 47回	上野: 50回		充実	時事情報や市民ニーズをタイムリーに把握しつつ、関連図書資料を充実する必要がある。		
					いがまち: 14回	いがまち: 20回		充実	市民の読書への関心を高めるため、読書週間や季節に合った本、趣味のコーナーを設置し、情報発信した。		
					島ヶ原: 13回	島ヶ原: 13回		充実	定期的に準新刊図書を入れ替え、利用促進に努めます。		

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (2020年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見		
					2020年度実績値	2020年度目標値						
図書館	生涯を通じ、生きがいを持 活躍できる	▲ 読書活動の支援と充実	▲ ・特集コーナー の設置	▲ *「郷土の歴史夜咄会」を開催し、伊賀の歴史を学ぶ機会を提供するとともに、関連資料の歴史企画展示を行うことにより、伊賀の歴史への関心を高めた。 *市民ニーズや時事情報を参考にテーマを決め、関連資料特集コーナーを設け利用促進に努めた。	阿山:22回	阿山:12回		充実	ニーズにあった特設コーナーを継続する。			
					大山田:27回	大山田:24回		充実	上野図書館から図書の一時的借入等を実施し、特集コーナーを充実した。			
					青山:13回	青山:21回		充実	地域と環境に応じた実施を継続していく。			
			読書感想文コンクールによる読書活動啓発事業	*読書感想文コンクールを実施し、特に児童の読書推進に努めた。	応募数:180点	応募数:350点		充実	読書により感じたことを活字にする取り組みは、継続実施する必要がある。			
		4	資料の収集と活用	資料の収集と活用	*市民からのリクエストや司書が選書した新刊図書などを購入し、資料の充実を図った。 *古文庫整理調査やレファレンス(調べもの相談)に取り組んだ。	図書購入冊数 計 6,791冊	図書購入冊数 計7,881冊					
						上野:5,643冊	上野:7,000冊		充実	市民ニーズや時事情報を把握し、効果的かつ効率的な資料収集に努める必要がある。		
						いがまち:331冊	いがまち:300冊		充実	利用者のニーズを反映した様々な分野の新刊図書を購入し、図書資料の充実を図ることができた。		
						島ヶ原:28冊	島ヶ原:20冊		充実	他館から要望に添った図書資料を取り寄せることができるようサポートします。		
						阿山:288冊	阿山:200冊		充実	新刊図書の購入等により、資料を充実することができた。		
						大山田:273冊	大山田:180冊		充実	図書購入予算等の減額に伴い、購入冊数の縮小。		
青山:228冊	青山:180冊		充実	移転に向けて、蔵書の整理を進めている。								